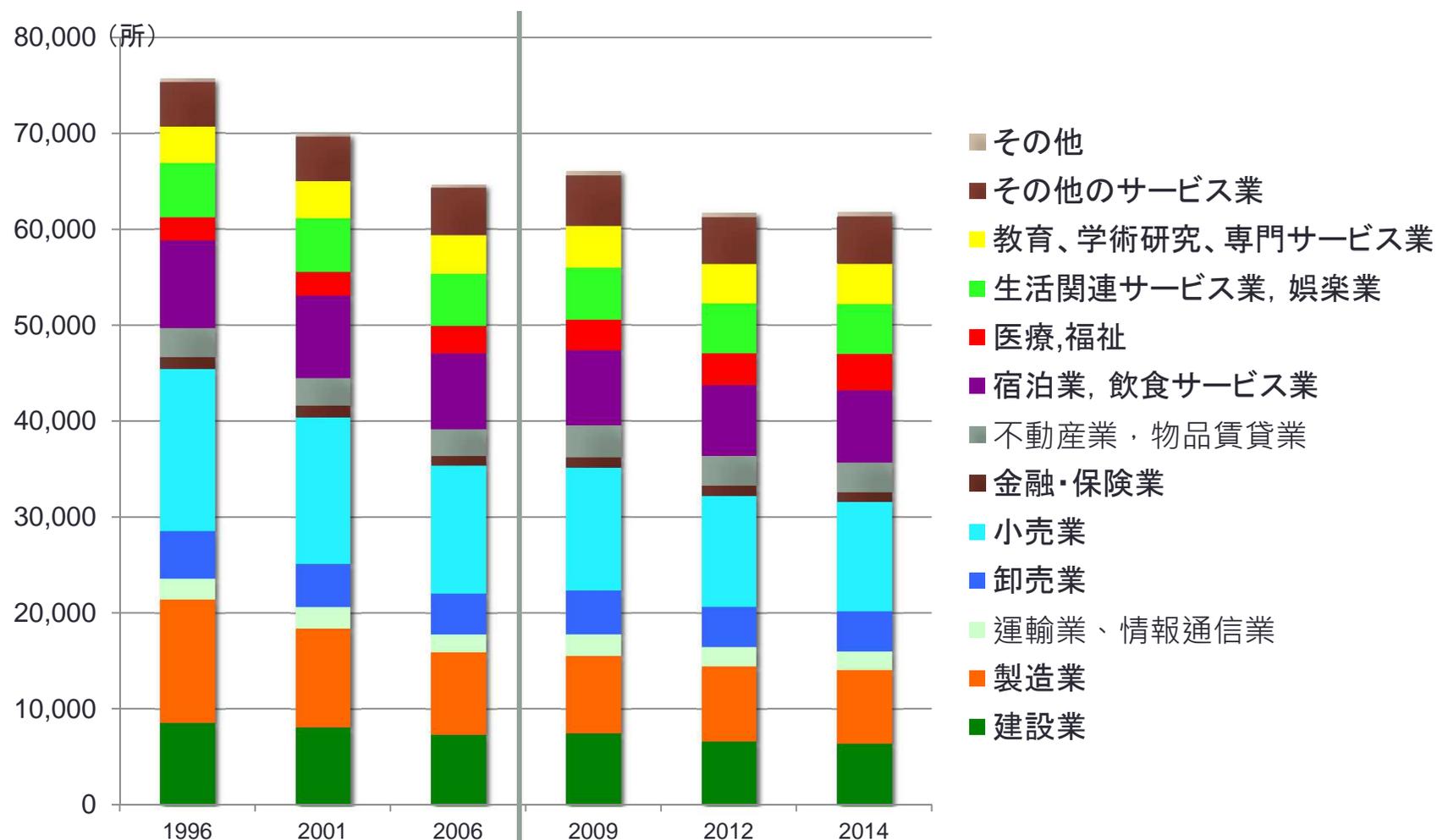


3.産業構造分野

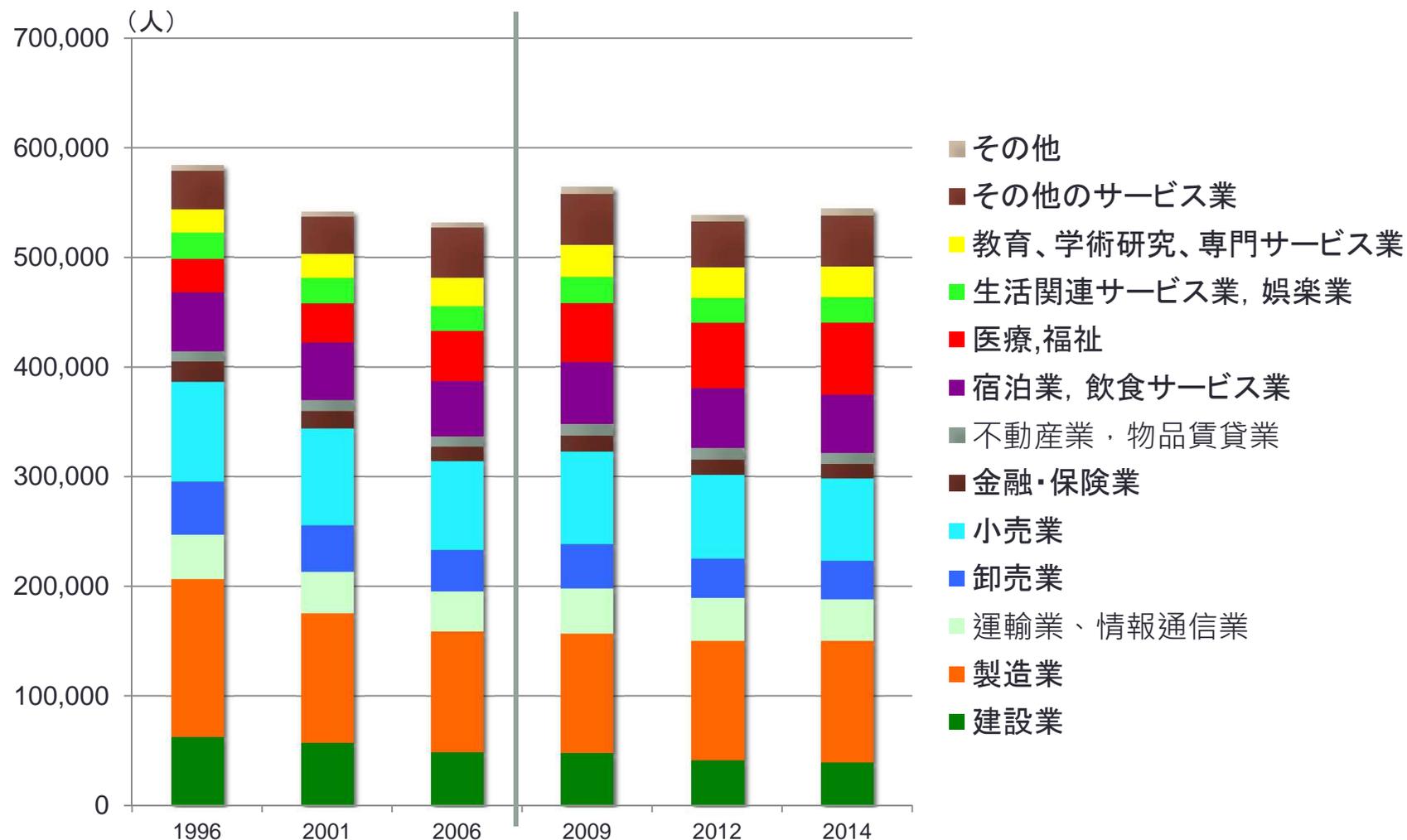
経済センサス、事業所・企業統計調査、工業統計、商業統計及び「石川県統計書」各年版に基づく経年分析

産業部門別事業所数(民営)の推移



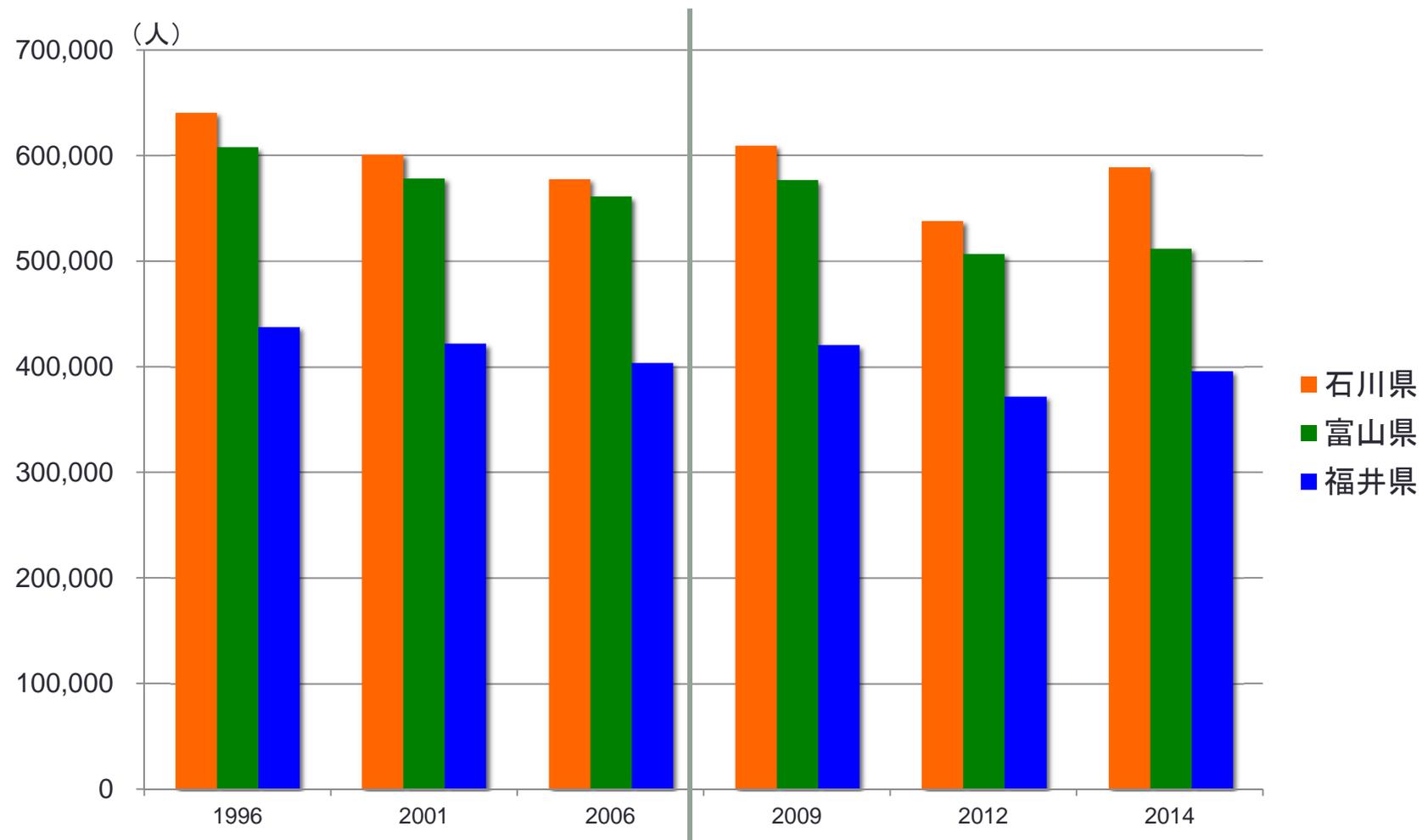
資料:「石川県統計書」各年版より作成。※元データは、2006年までは事業所・企業統計調査、2009年からは経済センサスで、統計の取り方に若干の変更があるので注意。

産業部門別事業所従業者数(民営)の推移



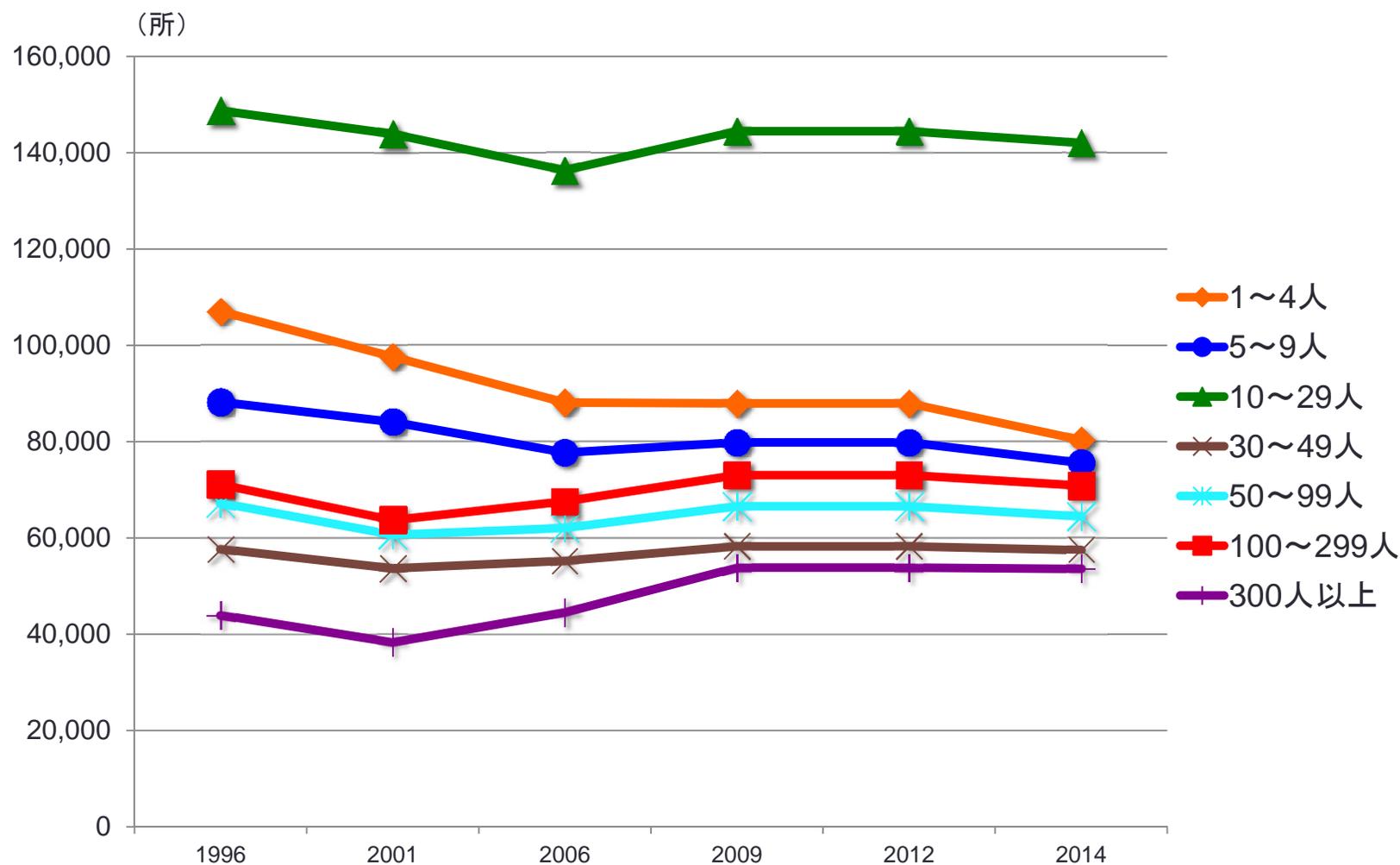
資料:「石川県統計書」各年版より作成。※元データは、2006年までは事業所・企業統計調査、2009年からは経済センサスで、統計の取り方に若干の変更があるので注意。

北陸3県の事業所従業者数の推移



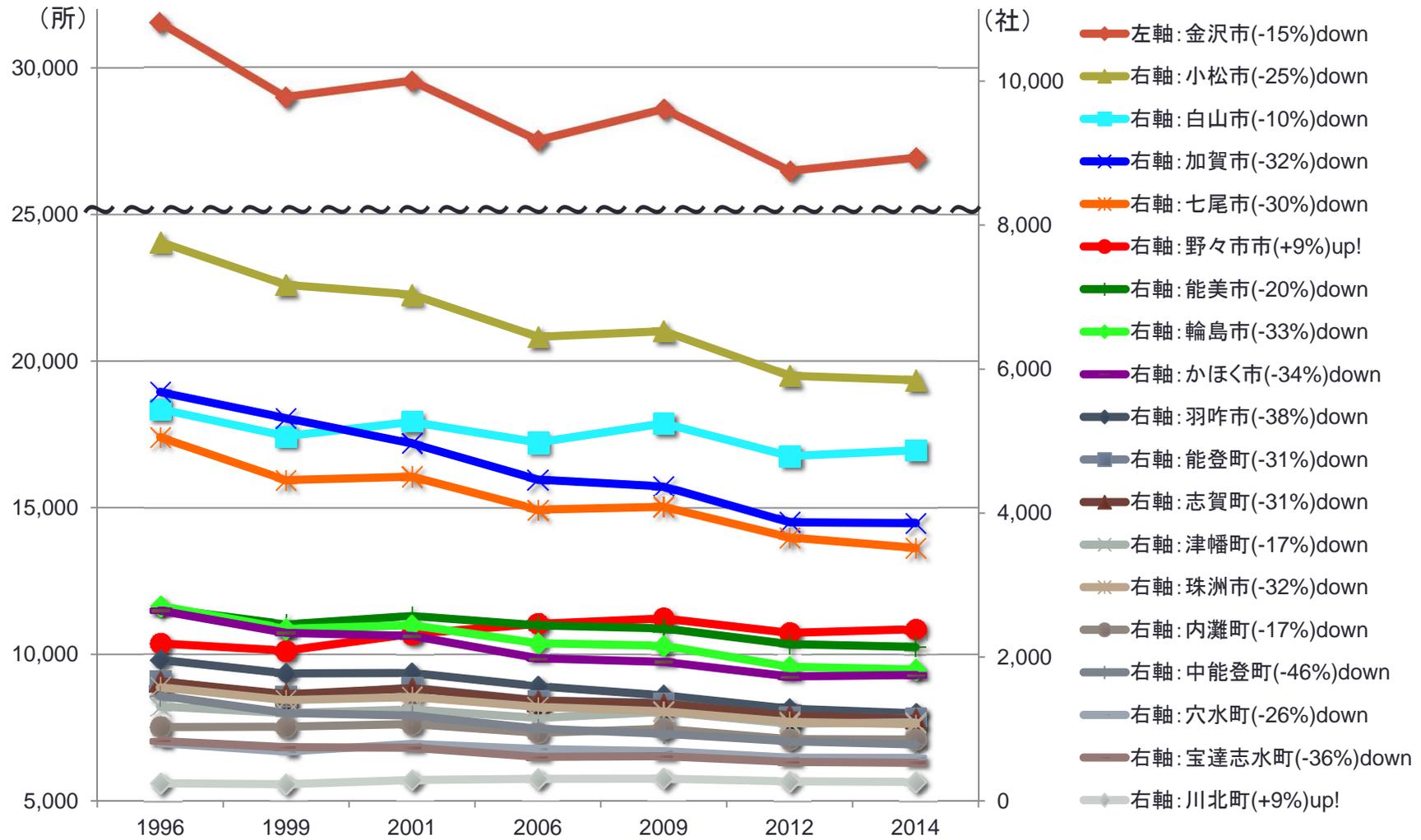
資料:「石川県統計書」「富山県統計年鑑」「福井県統計年鑑」各年版より作成。※元データは、2006年までは事業所・企業統計調査、2009年からは経済センサスで、統計の取り方に若干の変更があるので注意。

事業所規模別従業者数(民営)の推移



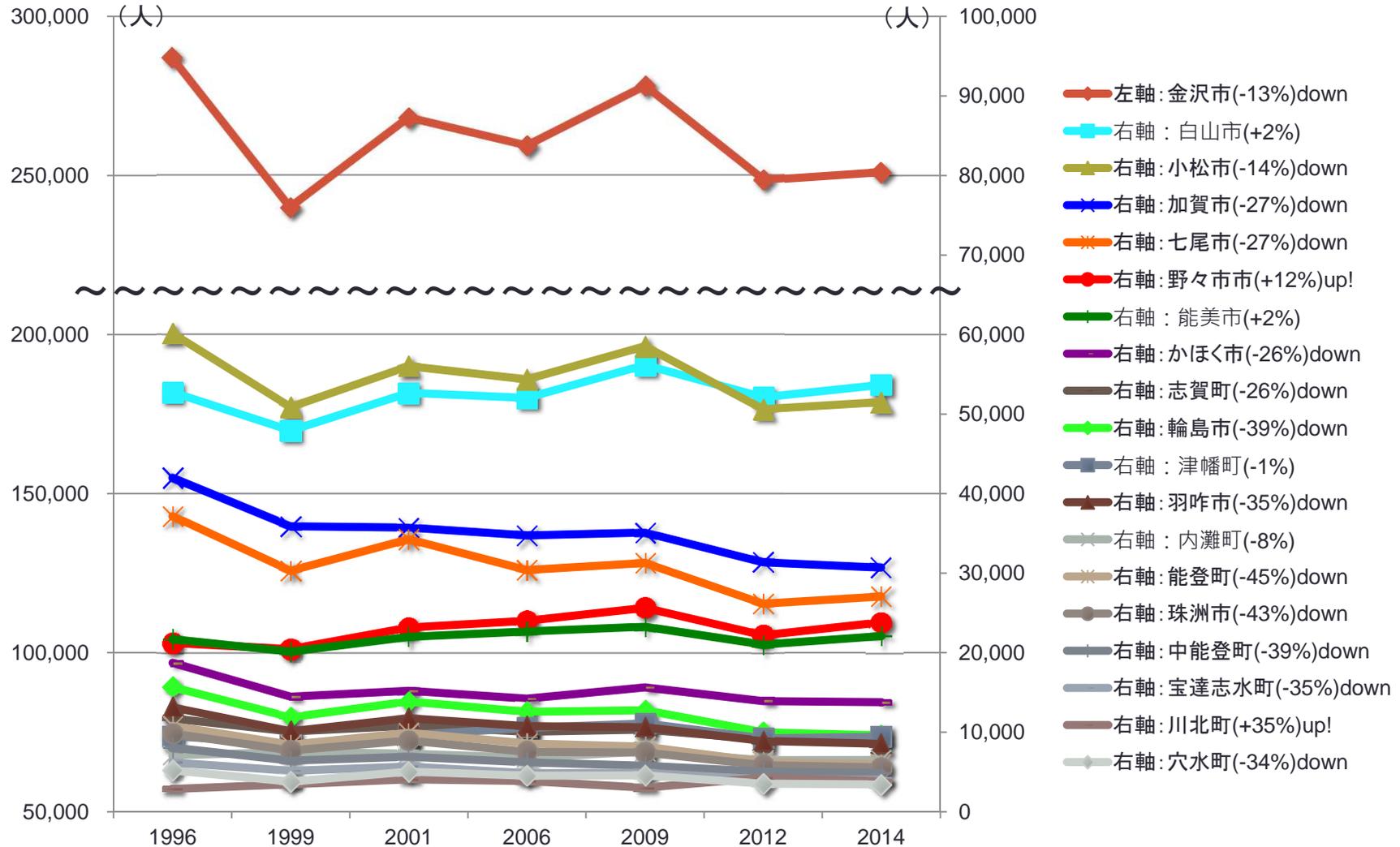
資料:「石川県統計書」各年版より作成。

市町村別事業所数の推移



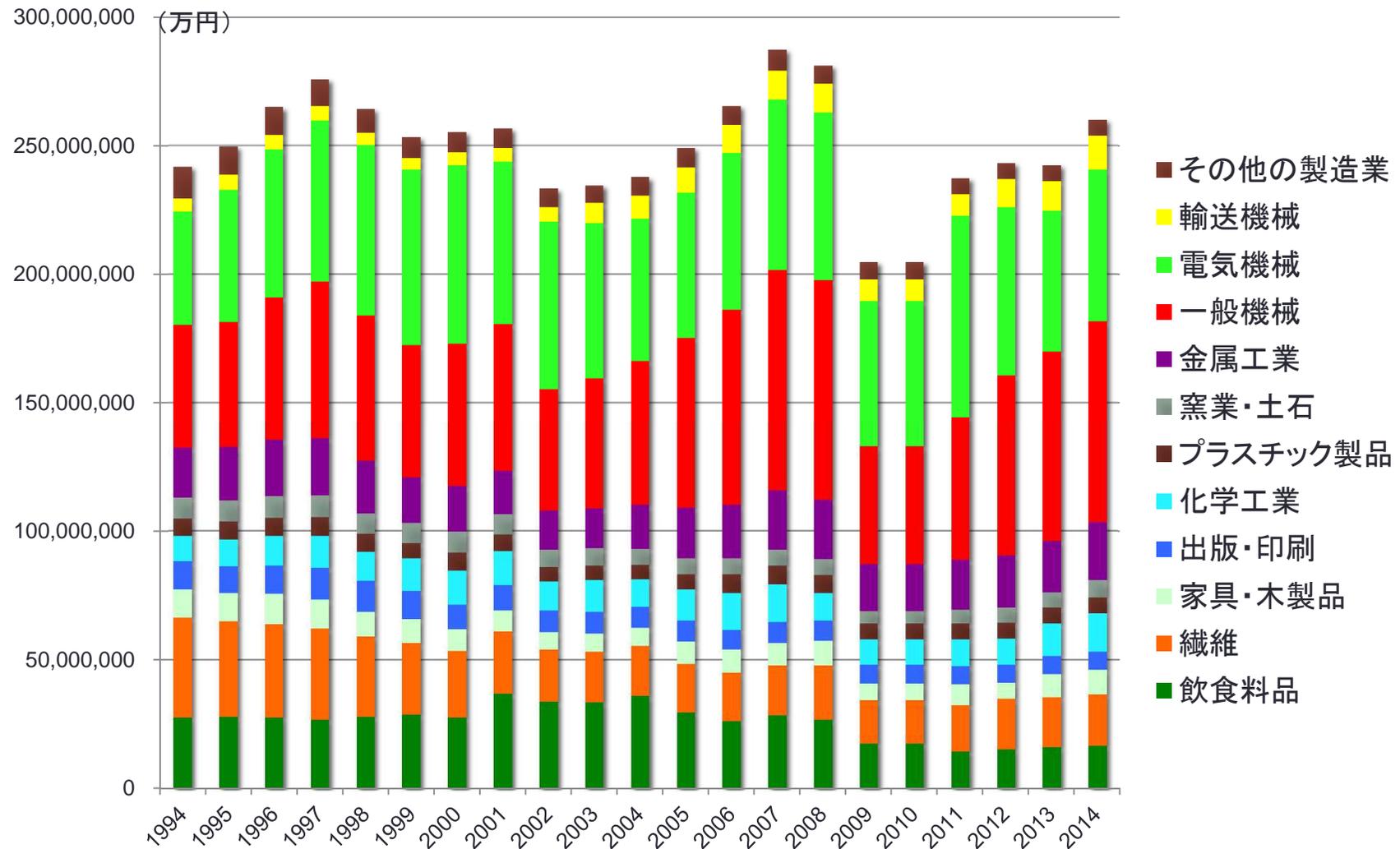
資料:「石川県統計書」各年版より作成。

市町村別事業所従業員数の推移



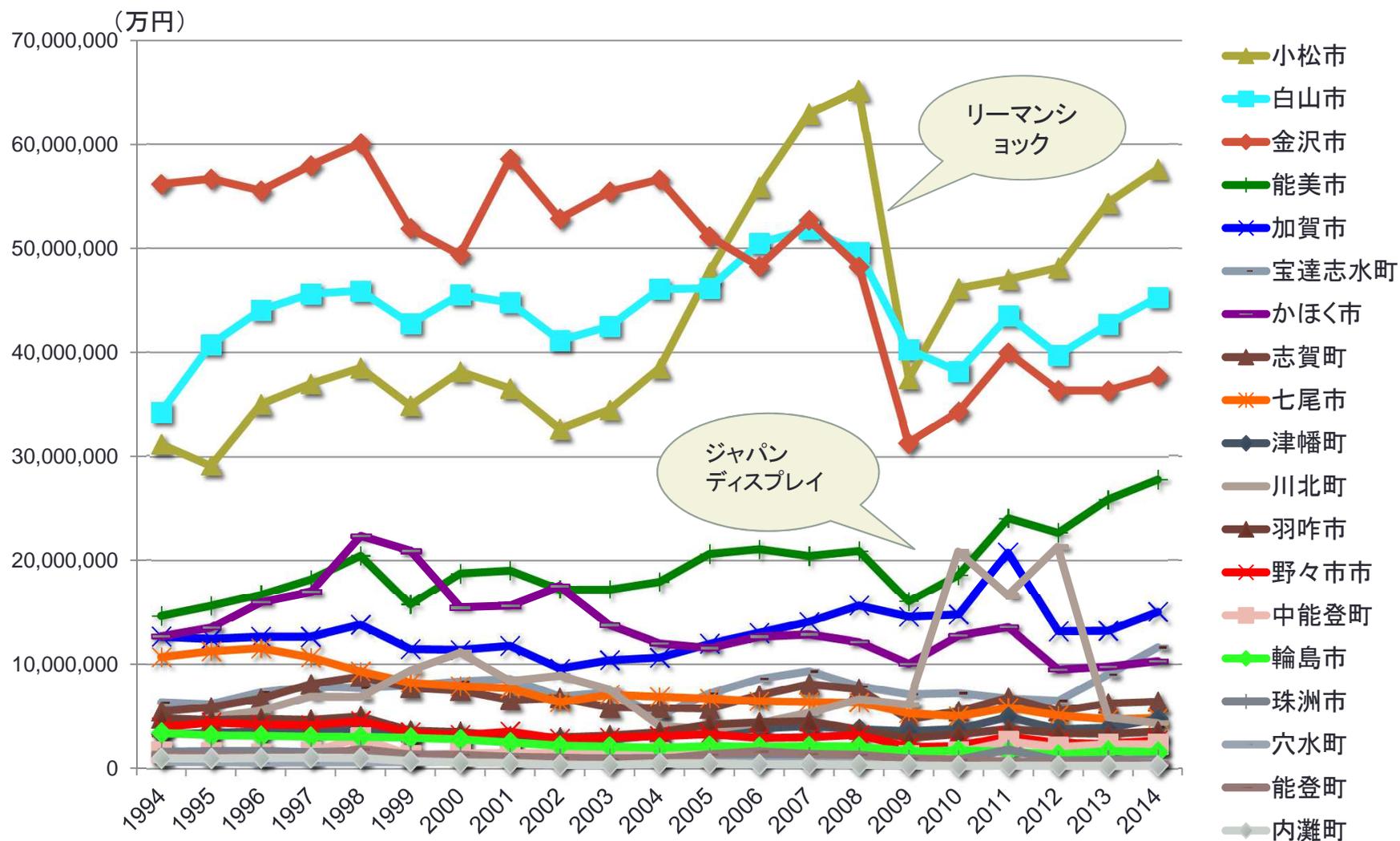
資料:「石川県統計書」各年版より作成。

産業部門別製造品出荷額の推移



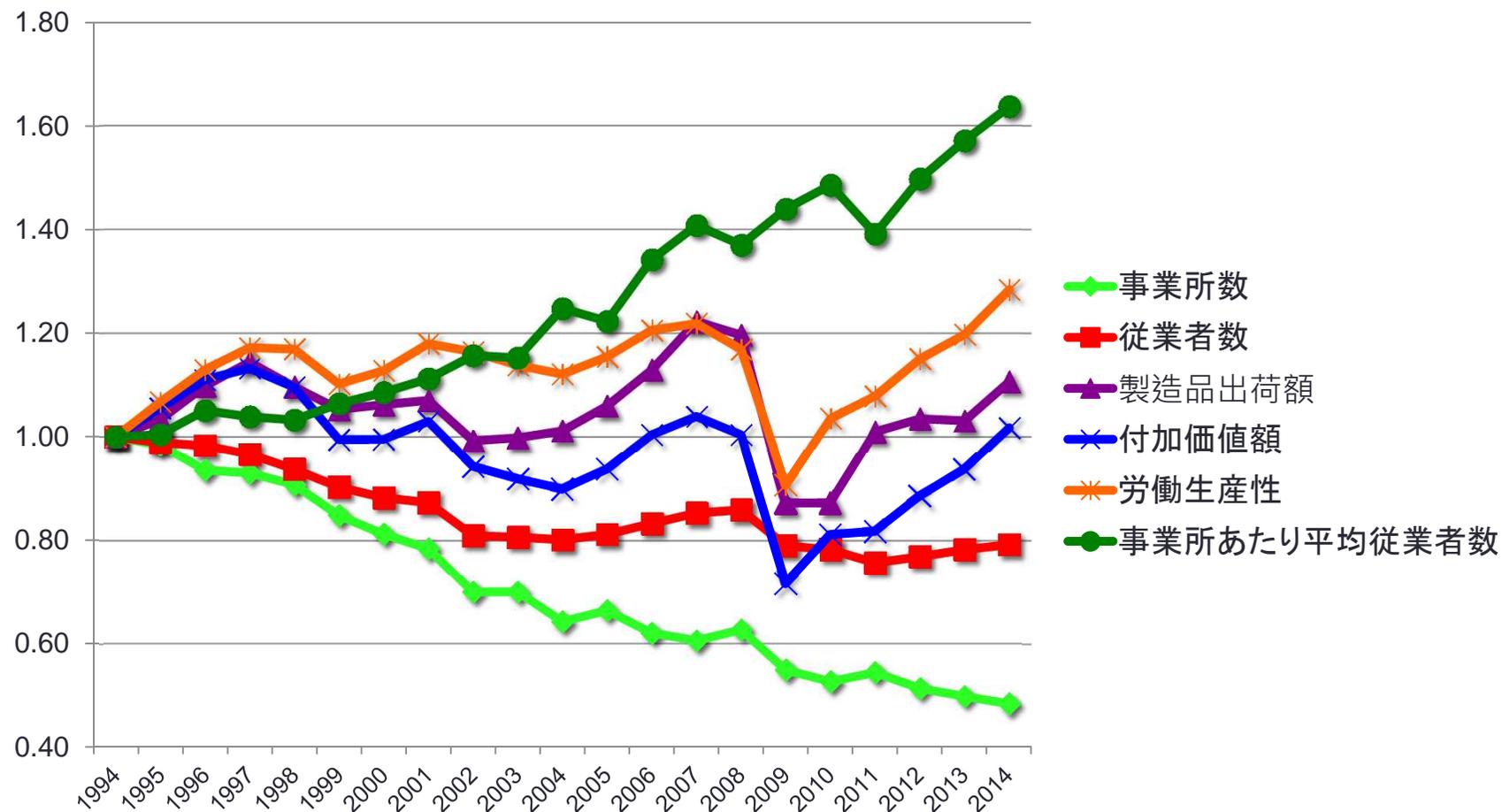
資料:「工業統計」「石川県統計書」各年版より作成。

市町村別製造品出荷額の推移



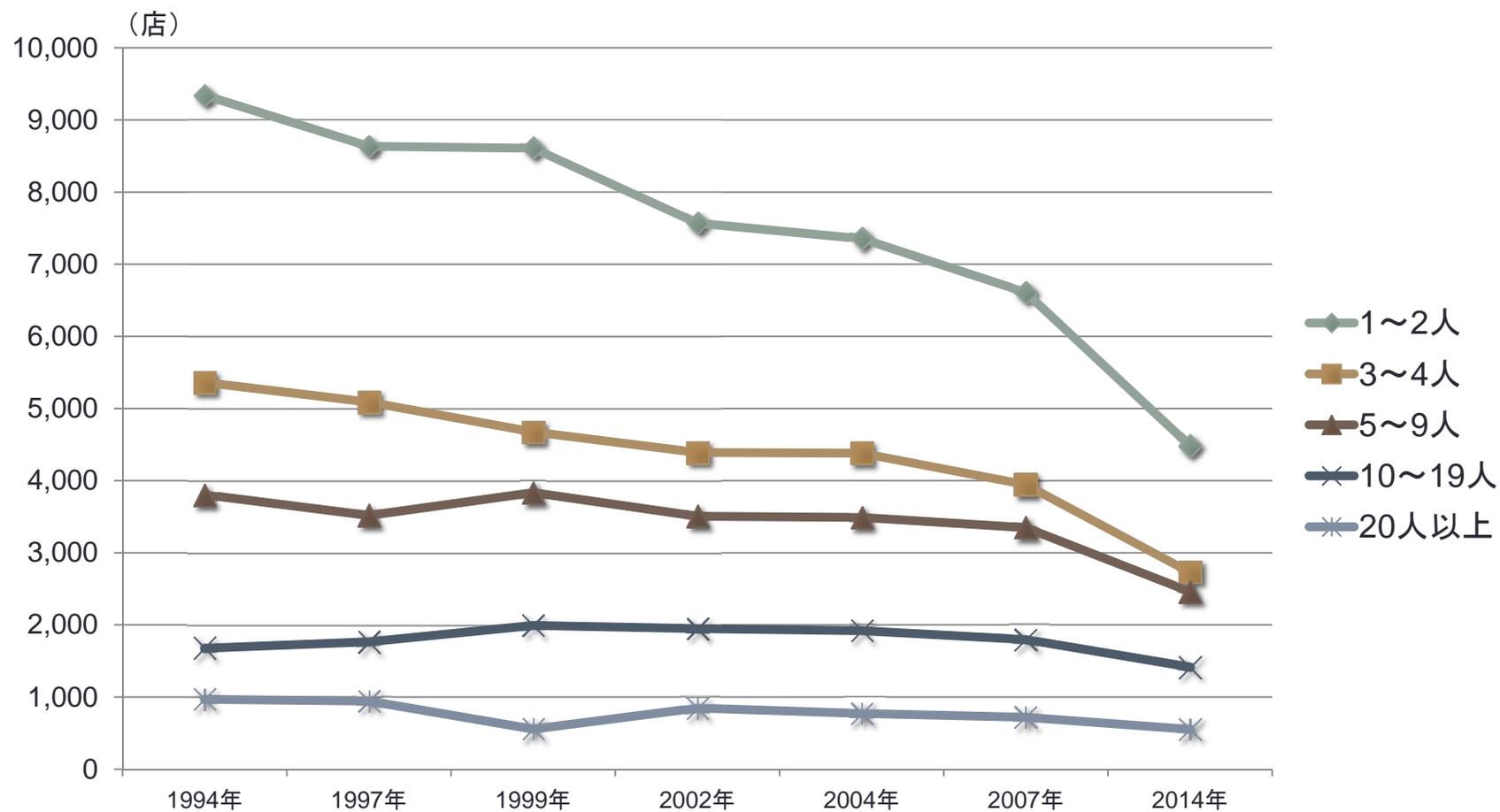
資料:「工業統計」「石川県統計書」各年版より作成。

製造業(従業者4人以上)に関する諸指数 (1994年=1.00)



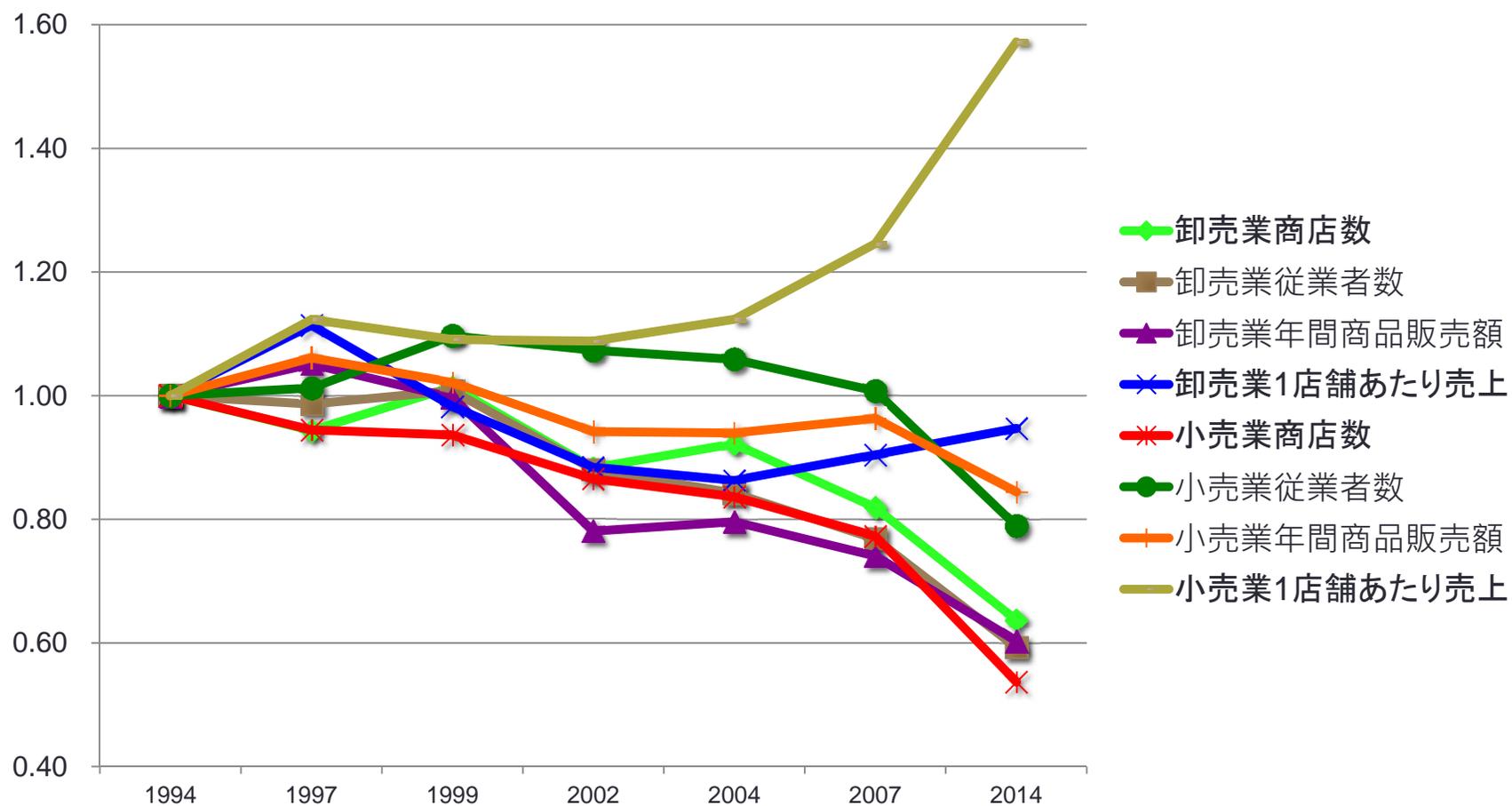
資料:「工業統計」「石川県統計書」各年版より作成。

従業員規模別卸・小売業店舗数の推移



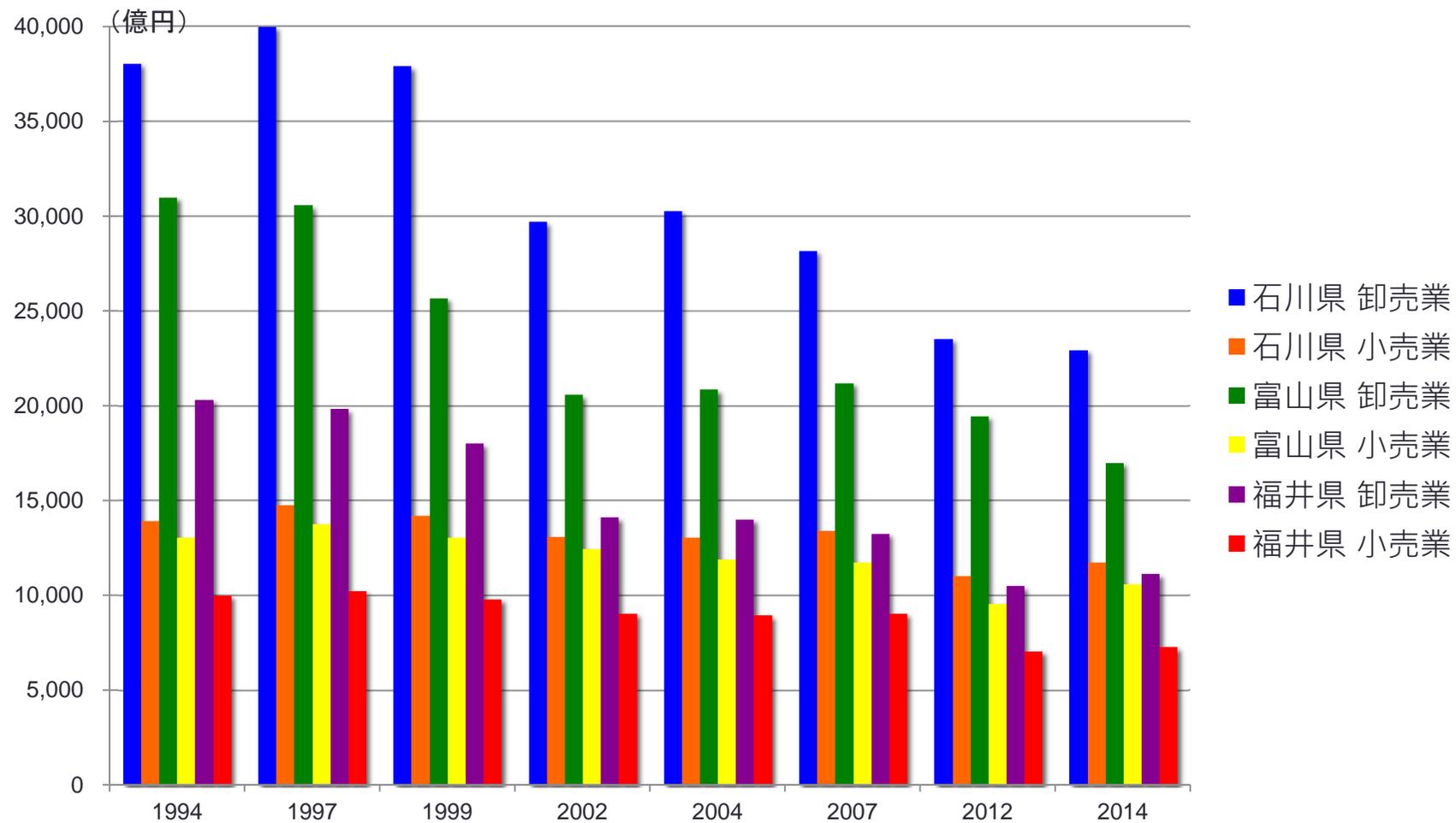
資料:「石川県統計書」各年版より作成。

卸・小売業に関する諸指数(1994年=1.00)



資料:「石川県統計書」各年版より作成。

卸・小売業の年間商品販売額に関する 北陸3県比較



資料:「石川県統計書」「富山県統計年鑑」「福井県統計年鑑」「商業統計」「経済センサス」各年版より作成。

分析から見えてくる論点

1. 18年間で事業所数は少なくとも約1万4000所、従業者数は約4万人減っている。それでも隣県の富山よりは緩やか。製造業、建設業、卸・小売業、金融・保険業で淘汰が進んだ。増えたのは医療・福祉部門のみ。
2. 事業所の立地状況では、北陸自動車道沿線の「郊外」自治体が健闘しているが、能登半島方面の市町は大きくマイナスで、意外なことに金沢市や加賀市もかなりのマイナスである。
3. 製造業は、リーマンショック期における建機・産機のダウンが影響し、ようやくそこから立ち直りつつある。小松市・白山市が金沢市の製造品出荷額を抜き、能美市も迫りつつある。事業所の淘汰・規模拡大とともに、製造機能は明らかに西にシフトしている。
4. 卸・小売業も小規模な店舗ほど淘汰が進んでおり、特に小売業は総販売額が下がる以上に店舗数減少が著しく、生き残り競争が激しい。
5. 小売業以上に販売額を減らしているのが卸売業で、石川県は卸売が強みであったのが20年間に約1.5兆円も販売額を落としているのは懸念材料である。